

いのち

■ 楽曲データ

歌詞：藪田義雄 作詞

楽曲：下総皖一 作曲

発表：—

初演：—

初出：—

管理番号：M0555

■ 創作の経緯

1949（昭和24）年11月に作曲された。その他、創作にかかわる詳細は不明。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第5巻収録

底資料：『佛教讃歌』 大谷派教学局 1956年

比較資料：作曲者自筆譜

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

仏教では、すべての生きとし生けるものは、ことごとく仏となりうる可能性をもっている、と説かれます（一切衆生悉有仏性）。《いのち》はその思想を受けた仏教讃歌で、野の花や小鳥、そして白露のはかない「いのち」のなかに仏がやどっている、と歌います。

◆ 作詞者について

藪田義雄は、1902（明治35）年、神奈川県に生まれました。詩作を北原白秋に学び、「沙羅詩社」を主宰。また、「日本文芸家協会」委員や「詩と音楽の会」の運営委員などを務め、1984（昭和59）年に亡くなるまで、数多くの詩を書いています。仏教讃歌では、《いのち》のほかに《親鸞聖人御誕生の歌》や子ども向けの《しゃぼんだま》などを遺しました。

◆ 作曲者について

下総皖一は、1898（明治31）年、埼玉県で生まれました。東京音楽学校（現・東京芸術大学音楽学部）師範科を卒業後、個人的に信時潔（仏教讃歌《みほとけは》の作曲者）に師事して作曲の勉強を続けました。その後、30代半ばでドイツに留学し、帰国後は母校の作曲科教授や音楽学部長を務めました。

作品は、管弦楽曲や芸術歌曲だけでなく、子ども向けの童謡や文部省唱歌など、多岐にわたっています。さらに、邦楽と洋楽の融合を試みて、和洋楽器による合奏曲も発表しました。仏教讃歌では、《ありがた勘べいさん》《涅槃会》などがあります。

◆歌い方の注意

- ①心をこめて、澄みきったすがすがしい声で歌うことを目指しましょう。
- ②歌い出しの小節（5小節目）は、2・4拍目の8分音符を急がないように。ふたつ続く8分音符のうち、ひとつめをやや長めに感じましょう。
- ③6小節目4拍目は、言葉の語頭に当たっています。発音をはっきりと。
- ④8小節目3拍目は四分音符です。ブレス（息継ぎ）のために短くなりすぎないようにしましょう。
- ⑤9小節目から12小節目にかけては、音域が高いため、十分にのどを開いて朗々と歌いましょう。また、9小節目3拍目「ミ」に不自然なアクセントがつかないように注意しましょう。
- ⑥12小節目4拍目、18小節目1拍目「付点8分音符+16分音符」のリズムは、はっきりと歌いましょう。
- ⑧16小節目4拍目からが、この曲のクライマックスです。17小節目は、レガート（なめらかに）を心がけて歌いましょう。特に、いちばん高い「ミ」の音が飛び出さないように。
- ⑩19小節目は、自分に言い聞かせるようなつもりで、丁寧に落ち着いて歌いましょう。

◆用途・音源

若婦人の集いや研修会、物故者の追悼会などで演奏してはいかがでしょうか。器楽演奏で、焼香のBGMとしてもよいでしょう。

楽譜は原曲のほか、同声二部合唱版が楽譜集『讃歌集二部合唱』第1巻に収録されています。

音源については、同声二部合唱版はCD『讃歌集二部合唱 あなたと出逢って』、器楽版はCD『和雅音』をご参照ください。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 12（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第137号収録）を加筆・修正のうえ、転載。